

# 14 右方移動構文

## ●右方移動構文の種類

右方移動構文 (Rightward Movement Construction) とは、基本語順の位置よりも右側の位置で発音される要素を含む構文のことである。例えば、(1a) の基本語順の例と比較すると、(1b) の外置 (Extraposition) と呼ばれる右方移動構文の例では、*of Chomsky's book* が、下線部で示した基本語順の位置よりも右側の文末位置で発音されている。また、(2) のように、名詞を修飾する制限関係節が外置されることもある。初期の生成文法では、外置された要素は、右方移動の結果、文末で発音されると考えられてきた (Ross 1967, Baltin 1978, 1981)。

- (1) a. A review of Chomsky's book appeared. (基本語順)  
b. A review    appeared [of Chomsky's book]. (Baltin 2006: 238)
  - (2) A book    appeared [which was written by Chomsky]. (ibid.: 237)
  - (3) に例示する重名詞句転移 (Heavy NP Shift) 構文も右方移動構文の一種に分類される。(3) では、基本語順で下線部位置を占めるはずの名詞句 *everything I had* が、右方移動を受けて文末で発音されると考えられる。  
(3) I gave    to John [everything I had]. (ibid.: 238)
  - (4) の場所句倒置 (Locative Inversion) 構文では、場所句 *into the room* の文頭への左方移動と主語 *John* の文末への右方移動が起きていると考えられる。  
(4) Into the room    walked [John]. (Rochemont and Culicover 1990: 70)
- これらの右方移動構文は、使用可能な動詞の種類などの点で異なるため、右方移動構文を一律に扱うことには問題がある。一方で、右方移動構文について共通して議論がなされてきた問題も存在する。本稿では、後者に焦点を当て、右方移動構文がどのような構文であるのかをみていく。

## ●右方移動構文の機能

右方移動構文に関する最大の疑問は、「なぜ、基本語順の文に加えて、右方移動構文が存在するのか」ということである。この疑問の答えは、右方移動を受ける要素の共通特性から導かれる。右方移動を受ける要素は、先行文脈・談話からは読み取れない新情報を担う焦点として解釈されるという共通特性がみられる。(Rochemont and Culicover 1990, 奥野 1995, 田子内・足立 2005)。そのため、(5) に示すように、談話で既に与えられている情報（旧情報）を担う代名詞 *it* や *it* を含む句を右方移動することはできない。

- (5) a. \*Down the hill    rolled [it]. (場所句倒置構文) (Rochemont 1978: 22)

- b. \*An analysis    will be necessary [of it]. (外置構文) (Fodor 1984: 114)

旧情報は文頭に位置し、新情報を担う焦点要素は文末に置かれなければならぬという文末焦点 (end-focus) 要請 (Kuno 1979, Quirk et al. 1985) を満たすため、右方移動構文が存在すると考えられる。(Rochemont and Culicover 1990, 高見 1995)。

### ●右方移動構文は右方移動が関与しているのか？

右方移動構文に共通するもう一つの問題は、「本当に文末要素の右方移動が行われているのか」ということである。これについては、研究者間で意見が分かれる。

右方移動の関与を示す証拠の一つは、wantとtoの縮約形であるwannaの(不)可能性から得られる。wanna縮約はwantとtoの間に要素が介在しないことを条件に起こるとされている。(6)の重名詞句転移文でwanna縮約が起こらないという事実は、everybody who is in the front rowが右方移動する前に、wantとtoの間に介在していたためであると考えれば説明がつく。

- (6) I \*wanna/?want    to come early [everybody who is in the front row].

(Rochemont 1992: 383)

一方、右方移動の関与を否定する証拠としては、(7)の外置構文における、分離先行詞の例が挙げられる。who were quite similarは、複数形の先行詞を要求するため、右方移動を受けるならば、下線部の2箇所から移動してきたことになる。しかし、a man who were quite similarやa woman who were quite similarという右方移動前の元となる表現は英文として容認されない。

- (7) A man    came in and a woman    went out [who were quite similar].

(Rochemont and Culicover 1990: 38)

「右方移動構文の文末要素が、右方移動を受けているのか、あるいは文末位置に基底生成されているのか」という問題は決着していない。

### ●まとめ

右方移動構文には、複数の種類があり、別個の特性を示すが、文末要素が新情報を担う焦点要素であるという点では共通している。また、「文末要素が右方移動を受けているか否か」については、研究者間で意見が分かれる。

(木村 博子)